

ジェンダーの視点と日本社会

ジェンダー平等に出遅れたのはなぜ？

伊藤公雄（京都産業大学）



1 ジェンダーとは？

そもそもジェンダーとは？

一般的定義

生物学的性差（sex）に対する

社会的に構築された性別（gender）

文化や歴史によって変化するジェンダー

ジェンダーは社会的な構築物



性の多様性

■ 性の多様性

性染色体 XX XY が多数派だが、XXXや
XYY,XO... など多様な性染色体をもつ人も
内性器／外性器 「両性具有」の人も
性ホルモン 日々変化する性ホルモン
性的指向 異性愛、同性愛、両性愛
性同一性「障がい」（性別違和）の人も



もともと文法用語だったジェンダー

ジェンダー もともとは文法用語

女性名詞／男性名詞／中性名詞

まずは性科学で（J・マネー）生物学的性差とは一定異なる性の
あり方として使われはじめ

1970年代前後から社会学などで

社会的に構築された性別の意味で普及



なぜ言葉にジェンダーが？

多くの文化がもっていた「世界」を二項対立で把握する宇宙観
(男女の二分類と対応)

言語におけるジェンダーはその典型

男性名詞／女性名詞はなぜあるか？

東アジアの陰陽文化

陰＝女性／陽＝男性

大韓民国の国旗と国章



前近代社会の男女の二項図式

ほとんどの文化に存在

ただし、地域や時代によって変化する男女の分類と世界把握の仕方

- 文化や歴史に応じて多様性のあったジェンダー
バナキュラーな（地域的・時代的特性をもつ）ジェンダー
(I・イリイチ)

世界図式に織り込まれたジェンダー図式

自覚されなかった性差別や性別による特権



近代産業社会とジェンダー

近代産業社会の登場とジェンダー構図の変容

前近代の人々に共有されていたジェンダー構図（共有されていたコスモス）の終焉

工業化・産業化の進行（社会によって多様性はあるが、基本的な流れとして）と、男女の固定的分業（公的領域＝男、私的領域＝女）の広がり



産業化とジェンダー

工業化＝産業化と男女間の性別による分業

男性＝生産労働＝「公」的労働＝有償

女性＝（労働力）再生産労働＝「私」的労働＝無償労働
(unpaid work)

ヨーロッパの家父長制（男性特権）の変容

（使用人を含む）家族の（人格的）統治

→家族の管理と保護へ



前近代社会から「近代」へ

「差別（性による固定的役割分担や身分差別）が構造化されることで安定した社会」である前近代社会から、「個人のアイデンティティ（ジェンダーはその大きな要素）」の自己証明が迫られる社会へ

性差の強調される近代社会（ラカーやシービンガーら）

「ジェンダー化」された（性差別）社会



産業構造の変容と価値観の変化

産業革命

第一次産業革命 蒸気機関など

第二次産業革命 電気エネルギー軸に発展

第三次産業革命 情報革命 情報やサービス軸に

第四次産業革命 AIやIoT軸に展開

1970年前後から 工業社会から脱工業社会への変化

第二次産業から情報やサービスを軸にする社会へ

価値観の変容 社会の複雑化・多様化・柔軟化

男性主導の工業社会の転換→近代的な男女二分法のゆらぎ



2 日本文化の中のジェンダー

- 日本社会は伝統的に女性の「活躍」がきわだって遅れている社会だったのか？
- 一神教と多神教 最高神は女性！
- 万葉集のなかの一般女性たちの和歌
- 平安時代の女性の作家たち
- 戦国時代に日本にやってきた宣教師の眼に映った日本の女性たち



日本ジェンダー史の転換の開始



戦国時代 料理は男の仕事！



もともと日本はイクメン社会？



ではなぜ、男女格差が

- 明治以後の近代化と男女格差の拡大

江戸時代までももちろん男女の格差は存在

身分制の社会の終わりと「四民平等」原則

他方で「国民皆兵」制度の導入 男女の格差

明治民法 ヨーロッパ型の家父長制の導入

教育 良妻賢母教育の徹底

夫婦同姓が始まったのはいつから？

源頼朝の妻の名は？

3 ジェンダー平等に 出遅れた日本社会

国際社会の変化

出遅れた日本社会

わかりやすいデータとしての世界経済フォーラムの

GGGI（グローバルジェンダーギャップ指数＝ジェン
ダー平等度の国際ランキング）

4つの指標 健康、経済、政治、教育

2021年世界156ヶ国中120位

17

G7諸国のランキング

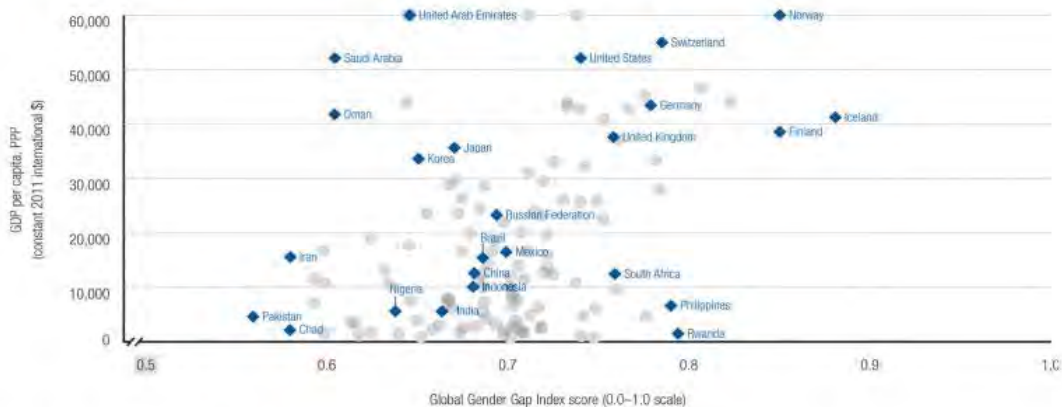
	2021(156ヶ国)	2006(115ヶ国)
ドイツ	11位	5位
フランス	16位	70位
カナダ	24位	14位
英国	23位	9位
USA	30位	23位
イタリア	62位	77位
日本	120位	80位

なぜWEFがジェンダー平等か

- WEF（世界経済フォーラム）が、なぜジェンダー平等のランキングを2006年から発表するようになったのか？
- WEFのテーマ：安定した経済の成長（当然、人権問題が中心の団体ではない）
- ダイバーシティが企業組織を活性化する

一人当たりGDP×ジェンダー平等

Figure 31: GDP per capita vs Global Gender Gap Index 2015



Source: Global Gender Gap Index 2015 and the World Bank's World Development Indicators (WDI) online database, accessed July 2015.

Notes: GDP per capita for Kuwait, Luxembourg, Norway, Qatar, Singapore, and the United Arab Emirates has been capped at \$60,000. Argentina is not included in the figure. The X axis has been truncated to enhance readability.

進んだ日本、遅れた欧米

戦後の改革と男女平等の憲法・民法

家父長制の廃止、協議離婚・「中絶」合法化（優生保護法という問題の多い法律の下ではあったが）

欧米社会

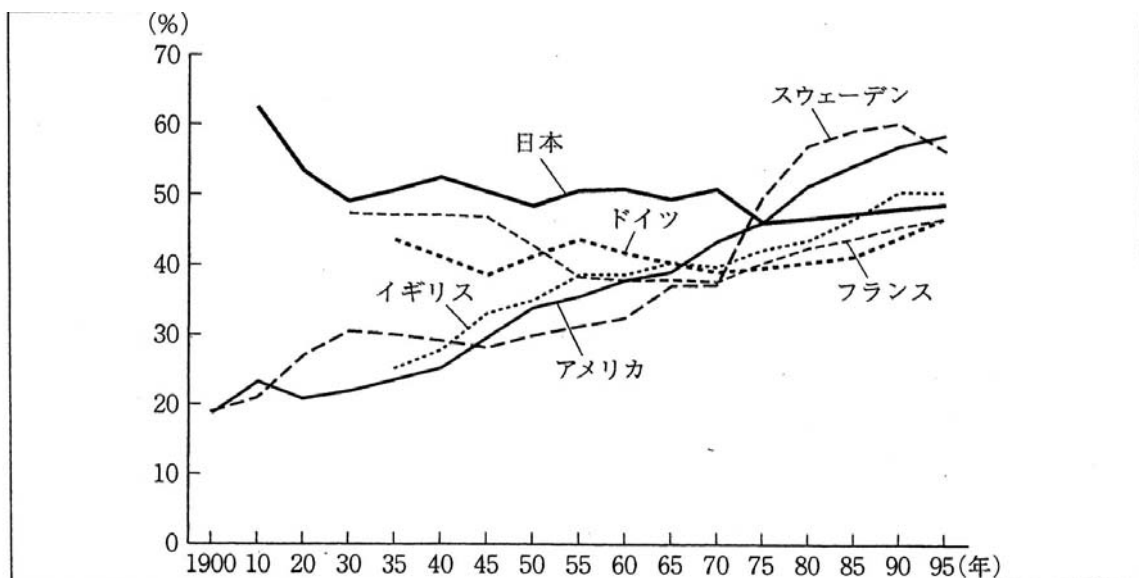
離婚と中絶の法律制定運動 欧米では1970年前後

家父長制が1980年代くらいまでは法律のなかに残存

スイスで結婚した女性が夫の許可なく働くことが法律上可能になったのはいつ？

フランスで結婚した女性が自分名義で通帳が作れるようになったのはいつ？

トップクラスの女性労働力率



女性労働力率の歴史的変化

経済企画庁のデータ(1997)による

転換期としての1970-80年代 変化した国際社会

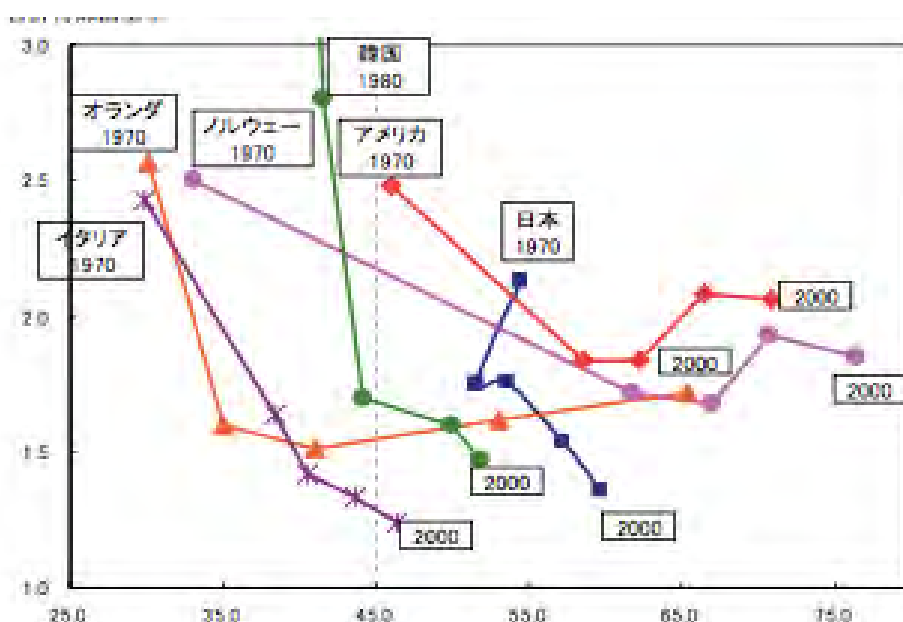
1970年代以後の家族と労働をめぐる国際的变化

- 女性の急激な労働参加／参画
(性差別撤廃への動きの広がり)
- 他方での労働時間短縮の動き（人間らしい労働の思想の拡大）
- 働く男女を支えるための家族政策の推進



女性の労働参画の変化と日本

合計特殊出生率



内閣府「少子化と男女共同参画に関する社会環境の国際比較」 2006年



変わらなかった日本社会

1970年代以後、世界が急激に変化する中で

変わらなかった日本！なぜ変わらなかったか？

人口問題（団塊の世代の社会参加＝人口ボーナス）

人口の都市集中と核家族（祖父母や兄弟、地域の協力

なしの）の子育て（結婚後の女性の「主婦化」）

男性の長時間労働・女性の家事・育児（さらに子育て後

の低賃金非正規労働）による安定した経済成長

政府の「家庭基盤充実政策」 103万円の壁や3号被
保険者

25

変化が求められたのに

1990年代 少子高齢社会の到来がはっきりした時期

生産労働人口の減少に対応するためにも

女性の社会参画と男女のワークライフバランスによる社会の
展開が求められたのに

1970年代-80年代の（男性の長時間労働・女性の家事育
児プラス低賃金非正規労働による）「成功体験」から抜けきれな
かった日本社会

停滞の30年 GDPは上がらず、一人当たりGDPは、1～2
位から30位前後に転落

26

産業構造の変容と労働・家族

- 日本社会の30年の停滞の背景にあるもの
産業構造の転換（工業社会からポスト工業社会へ）
 - ポスト・フォーダイズム社会
 - 労働の変容（製造業中心から知識や高度な技術革新への移行＝高度人材育成の重要性）
 - 家族の変容（多様な家族、同性カップルなど）
 - 組織やコミュニティの再編（中央集権から分権社会、ダイバーシティ重視社会へ。新たなデモクラシーの模索）
- 1970年代モデルから離れられない日本社会



4 変容するジェンダー概念

- 多様なジェンダー概念

セックスもジェンダー（J・バトラー）

ジェンダー概念の拡張 生物学的・生理的性差も含む形も

Gender-Based Medicine (性差医療)

Gendered Innovation

性差研究（セックスとジェンダー双方に目配りしつつ）に基づく技術革新の動き



5 ジェンダー平等の流れとメンズ・クライシス

男女共同参画という言葉

男女平等、男女共生、男女共同参加（型）社会

「平等＝結果の平等」論 平等という言葉の忌避

→男女共同参画

←国連の女性差別撤廃条約は「性差別撤廃」法を要求

「男女共同参画か男女平等か」論争

男女共同参画の英語訳Gender Equality =ジェンダー平等

ジェンダー平等：男性主導の仕組みを根本的に転換し、固定的な男女の二分法に基づく差別（偏見）や排除の撤廃



取り残される男性たち

産業構造の変容

男性主導の中央集権型で均質な労働組織の変化

変わりきれない男性たち

社会の根本的变化の前に

かつて「社会的マジョリティ」であった「男性たち」の危機

不安定化する男性たち＝メンズ・クライシス



剥奪（感）の男性化

- 「貧困の女性化」 経済発展のなかで貧困のしわ寄せが女性に強く作用する現象
- 「剥奪（感）の男性化」 Masculinization of deprivation
- 社会の変化のなかで「剥奪（何か奪われる）」感情が、男性には生まれつつあるつつある「



剥奪感の男性化と社会的危機

- 男性たち=いまだ「マジョリティ」幻想のなかに
- 実際に生じている「メンズ・クライシス」を直視しきれないでいる日本社会
- 硬直した組織（中央集権、前例主義、単色の組織運営）がもたらす社会的危機



TOXIC MASCULINITY

- Toxic Masculinity (自他に有害な男らしさへのこだわり)
- 近年、USAなどでの無差別殺人など凶悪な暴力事件、性的暴力事件の分析の用語
- 背景にあるのは剥奪（感）の男性化ではないか！

男性マジョリティの意識を変えるために

「下駄をはかされてきた」ことに気がつかない男性たち

それを支えてきたのは「男性主導＝男性が社会的マジョリティである」ことを前提にしてきた社会・制度

東京医大入試問題はその典型例

1970年代から国際的に展開されたジェンダー平等の動きに（特に）鈍感な日本の男性社会

マジョリティであることを見つめ直すのは難しい＝マジョリティのルールが社会のルールだから

むしろマジョリティの擬似的アイデンティティ・ポリテクスさえ展開

男性対象のジェンダー政策も！

- ジェンダー平等社会構築のために
女性エンパワーメント政策の推進

他方で、男性主導社会を支えている男性の意識と生活スタイルの変更も必要

また、「剥奪感情」をもっていながらどうしたらいいか悩んでいる男性への対応も

男性対象のジェンダー平等政策の必要性



おわりに

- ケアの倫理とデモクラシーの再生
ケアの視座からの社会の再構築
ケア＝自他の生命・身体・気持ちなどに対する配慮
人間に対するケア＝人間の共生のために
自然に対するケア＝自然との共生のために



男性のケア力の育成へ

- 男性の女性たちへの対応

支配と依存の構図 対等な関係が築けない
ケアする力（支配からの脱出のために）

他者の存在、人格、思い、（他者と自己の）身体、などへの
配慮・共感能力の重要性

ケアを受け入れる力（依存の自覚と感謝）

自分たちが配慮されていることの認識

他者からの援助を受容する力・感謝の力



おわりに

現代社会＝複雑性と多様性が広がる社会

多様性・複雑性に対応しきれていない私たちの「文化」

文化遅滞（オズボーン）

複雑性・多様性を受け入れ、それを日常化する必要性

キーポイントの一つ

自然と人間社会に対するケアとリペア（ナオミ・クライン）

配慮の力に依拠した修復・回復の力の重要性

こうした視点にたったジェンダー視点からのアプローチの重要性＝gendered innovation とともに深く関わる課題



ご清聴ありがとうございました

